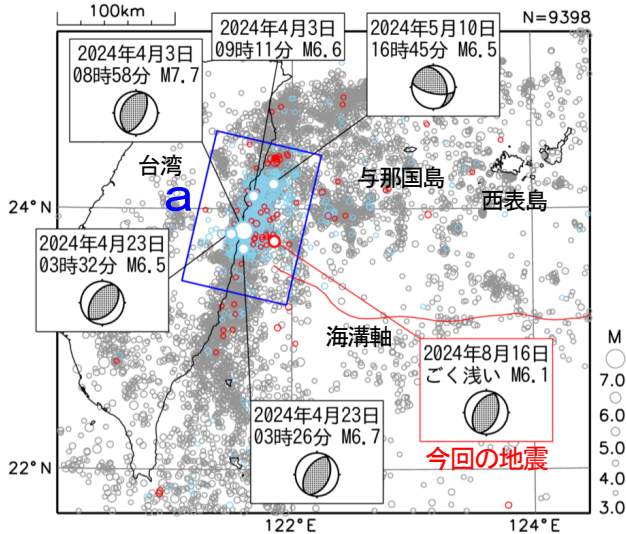
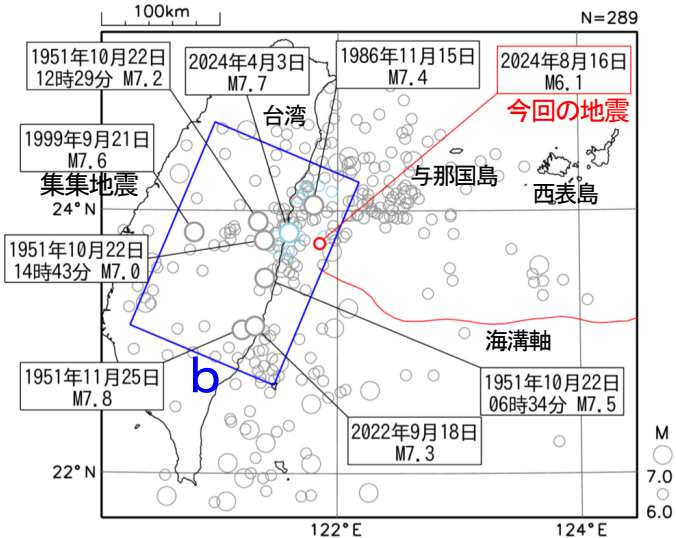


8月16日 台湾付近の地震

震央分布図
(2009年9月1日～2024年8月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 3.0$)
2024年4月以降の地震を水色で表示、8月の地震を赤色で表示
図中の発震機構はCMT解

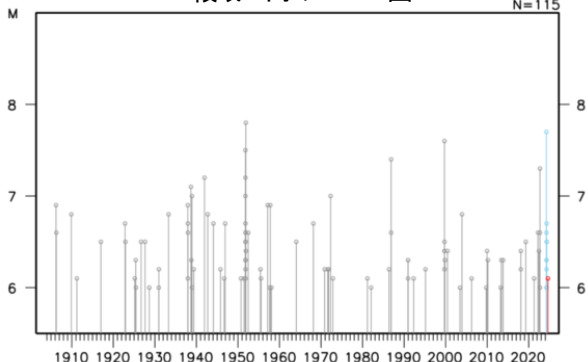


震央分布図
(1904年1月1日～2024年8月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 6.0$)
2024年4月以降の地震を水色で表示、8月の地震を赤色で表示



2018年までの震源要素はISC-GEM、
2019年以降の地震の震源要素は気象庁による

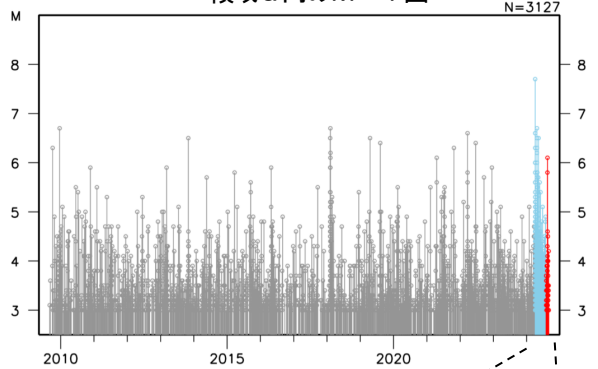
領域b内のM-T図



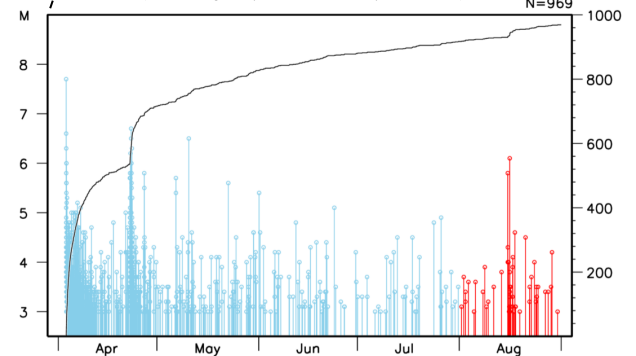
2024年8月16日08時35分に台湾付近のごく浅い場所でM6.1の地震（日本国内で観測された最大の揺れは震度1）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は、西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

2009年9月以降の活動をみると、この地震の震央付近（領域a）では、M6.0以上の地震が時々発生しており、2024年4月から5月にかけてM6.0以上の地震が11回発生した。2024年4月3日に発生したM7.7の地震（日本国内で観測された最大の揺れは震度4）では、与那国島久部良で27cmの津波を観測し、台湾では死者14人などの被害が生じた（被害は、OCHA（UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs：国連人道問題調整事務所、2024年4月23日現在）による）。

領域a内のM-T図



領域a内のM-T図及び回数積算図
(2024年4月1日～8月31日)



1904年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、過去にM7.0以上の地震が時々発生している。1951年10月から12月にかけてM7.0以上の地震が4回発生した。1986年11月15日にM7.4の地震（日本国内で観測された最大の揺れは震度3）により、宮古島平良で30cm（平常潮位からの最大の高さ）の津波を観測し、台湾では死者13人、負傷者45人などの被害が生じた。また、1999年9月21日に集集地震（M7.6、日本国内で観測された最大の揺れは震度2）が発生し、台湾では死者2,413人、負傷者8,700人などの被害が生じた（被害は、宇津の「世界の被害地震の表」による）。

気象庁作成